

平成19年度 施策評価表

所属 21100000

都市整備部 街づ調整課

施策	1137 公共交通							
区分								
対象	公共交通を利用する者							
施策意図	交通不便地域の改善が進み、多くの人々が公共交通を利用している							
現状と課題	平成17年3月15日に発生した東武伊勢崎線における踏切事故などにより、緊急の踏切対策や連続立体交差化事業に対する区民ニーズが高まっている。また、規制緩和に伴い、バス事業に対する区民ニーズも高まっている。							
成果指標	1：区内の交通の便がよいと思う区民の割合（マーケティング調査）							
目標達成状況	成果指標1 [%]	予定	平成17年度	平成18年度	平成19年度			
		実績	44.60	44.60	44.60			
	成果指標2 []	予定						
		実績	43.70	42.50				
	成果指標3 []	予定						
		実績						
	トータルコスト (千円)	予定		857,957	1,193,112			
		実績	862,083	284,817				
	施策の位置付け	区の関与度合	区中心。区が主体となって取り組むべき課題であるが、実現には区民と一体となった取り組みが不可欠である。					
		区民ニーズへの貢献	非常に大きい。基本計画の区民フォーラムや自治町会連絡会などにおいても、公共交通網の充実に対する要望は非常に高く、ニーズへの貢献度は非常に大きい。					
成果向上の必要性		向上必要。区民ニーズも高く、施策成果水準の向上が必要である。						
成果向上の容易性		容易ではない。人口減少社会を迎える中で、公共交通、特に鉄道網の充実を図る取組みは、採算性の壁に阻まれ難しく、より身近な公共機関のバス網の充実を図る必要がある。						
位置付け総合評価	継続。公共交通については、これまで連立事業等を含め、力を注いできた経過がある。今後とも、これらを踏まえ、関係者の合意形成を図り、進めていきたい。							
施策目的達成のための事務事業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	総合評価	
	113701	地下鉄8・11号線及び環七高速鉄道建設促進（公共交通網の建設）				10,200	5	
	113702	地域乗合タクシー運行事業運営費助成				12,539	5	
	113703	京成押上線連続立体交差事業（京成押上線立体化の促進）				259,378	5	
	113704	京成高砂駅～江戸川駅付近鉄道立体化検討				2,700	5	

【総合評価】6=拡充/5=継続/4=改善/3=再構築/2=縮小/1=廃止・休止/0=今回評価なし

コスト分析表

年 度 平成19年度

所 属 21100000

施 策 1137

都市整備部 街づ調整課

公共交通

期 間 平成17年度 ~ 平成19年度

(単位：千円)

		NO	平成17年度	平成18年度	平成19年度			
予 定	財源内訳	国庫支出金	(1)		211,791	446,650		
		都道府県支出金	(2)		150,236	173,993		
		地方債	(3)		0	0		
		その他	(4)		225,060	105,577		
		一般財源	(5)		267,954	464,722		
	直接費	事業費	(6)		826,853	1,164,282		
	職員人件費	人件費	(7)		28,188	26,660		
		再雇用職員分	(8)		0	0		
		(職員数：賦課)	(9)		3.24	3.10		
		(職員数：配賦)	(10)					
		職員数合計(9)+(10)	(11)		3.24	3.10		
	調整額	間接費	(12)		0	0		
		(加算)減価償却費	(13)		0	0		
		(加算)金利	(14)		0	0		
		(加算)退職給与引当	(15)		2,916	2,170		
		(控除)コスト対象外	(16)		0	0		
		(控除)雑収入	(17)		0	0		
	調整額計 (13)+(14)+(15)-(16)-(17)	(18)		2,916	2,170			
	トータルコスト (6)+(7)+(8)+(12)+(18)	(19)			857,957	1,193,112		
実 績	財源内訳	国庫支出金	(20)	224,258	57,035			
		都道府県支出金	(21)	193,096	37,122			
		地方債	(22)	0	0			
		その他	(23)	300,912	70,849			
		一般財源	(24)	141,540	117,543			
	直接費	事業費	(25)	838,807	255,657			
	職員人件費	人件費	(26)	20,999	26,892			
		再雇用職員分	(27)	0	0			
		(職員数：賦課)	(28)	2.53	3.24			
		(職員数：配賦)	(29)					
		職員数合計(28)+(29)	(30)	2.53	3.24			
	調整額	間接費	(31)	0	0			
		(加算)減価償却費	(32)	0	0			
		(加算)金利	(33)	0	0			
		(加算)退職給与引当	(34)	2,277	2,268			
		(控除)コスト対象外	(35)	0	0			
		(控除)雑収入	(36)	0	0			
	調整額計 (32)+(33)+(34)-(35)-(36)	(37)	2,277	2,268				
	トータルコスト (25)+(26)+(27)+(31)+(37)	(38)	862,083	284,817				

施策名	公共交通
-----	------

担当課： 街づくり調整課

施策の達成状況

【達成度評価】

平成18年度における、「区内の交通の便がよいと思う区民の割合」は、目標（44.6%）に対して実績（42.5%）であり、前年度と比較しても1.2ポイント減少している。公共交通の内容が京成押上線の連続立体交差事業や京成高砂駅～江戸川駅間の踏切解消及び地下鉄8・11号線・メトロセブンの建設など長期的な課題であり、その実現には長い年月が必要となる。公共交通に対する区民の満足度を少しでも目標値に近づけるよう、協議会活動などを通じ、区民の機運を高めるとともに、既に事業化している京成押上線の連続立体交差事業を着実に進めていく。

構成事務事業の次年度方向性

【次年度方向性の考え方】

平成19年度、京成高砂駅～江戸川駅間においては、引き続き勉強会を開催し早期実現に向け検討を重ねる。京成押上線については、東京都・京成電鉄との連携協力の下、事業の推進を図っていく。また、地下鉄8・11号線は学識経験者を含む検討委員会を開催するとともに、段階的な整備も視野に優先整備路線について検討する。さらに、メトロセブンはエイトライナーとの連携を維持し、区部周辺部環状公共交通としての検討を東京都も含め行っていく。